

スルホニルウレア剤抵抗性雑草の発生状況と湛水直播栽培での防除

福島県農業試験場 会津地域研究支場

平成12～14年度福島県農業試験場試験成績概要

分類コード 01-01-19207500

部門名 水稲－水稲－雑草発生－雑草防除－水稲直播

担当者 新田靖晃・手代木昌宏・穴澤 崇・齋藤弘文

I 新技術の解説

1 要旨

全国的に問題となっているスルホニルウレア（以下SUと略す）剤抵抗性雑草の会津管内における発生状況を確認した。また、湛水直播栽培でのSU剤抵抗性雑草の防除に実用性の高い薬剤を選定した。

- (1) 確認したSU剤抵抗性雑草は、アゼナ、ホタルイ、コナギ及びアゼトウガラシの4草種で、平坦地、山間地を問わず、水稲移植栽培ほ場、直播栽培ほ場、休耕田（部分休耕田含む）に広く発生していた。
- (2) SU剤抵抗性雑草に除草効果が高い成分を含む除草剤のうち選定した2剤は、カフェンストロール・ベンスルフロンメチル・ダイムロン・プロモブチドフロアブル剤、ピリミノバックメチル・プロモブチド・ベンスルフロンメチル・ペントキサゾンフロアブル剤で、除草効果、イネへの安全性から湛水直播栽培への適応の実用性が高かった。

2 期待される効果

- (1) SU剤抵抗性雑草の広範囲な発生を周知する。
- (2) 湛水直播栽培でのSU剤抵抗性雑草の防除は、これまでの2～3剤の体系処理から一発処理が可能である。

3 適用範囲

福島県内全域

4 普及上の留意点

- (1) 使用基準を遵守する。
- (2) カフェンストロール・ベンスルフロンメチル・ダイムロン・プロモブチドフロアブル剤は、湛水直播栽培への適用拡大登録申請中である。

II 具体的データ等

表1 SU剤抵抗性雑草の地域別発生確認割合

	発生確認割合
平坦地	52% (21)
山間地	32% (25)

注：2002年調査
() は調査サンプル数

表2 SU剤抵抗性雑草の草種別発生確認割合(%)

	移植 圃場	直播 圃場	休耕 田	計
アゼナ	20(5)	50(2)	50(4)	36(11)
ホタルイ	33(6)	100(3)	55(11)	55(20)
コナギ	0(7)	33(3)	60(5)	27(15)
計	17(18)	63(8)	55(20)	

注：2002年調査。() は調査サンプル数。休耕田は、調整水田などの部分的な転作による休耕も含む。

表 3 湛水直播圃場での薬効試験（2002 年、会津高田町八木沢）

	*1 処理 時期	*2 処理時の葉 齢		*3 除草効果		水稻の薬害	
		イネ	ホタルイ	残草率	残草状況	程度	症状
A 剤*4	+19	2.1L	2.1L	●	アゼナわずかに残草	無	－
B 剤*5	+19	2.1L	2.1L	●	アゼナわずかに残草	無	－
慣行剤	+9	始	前	○	ホタルイ、アゼナ残草	極微	生育抑制

注：*1 処理時期は播種後日数 *2 葉齢は最大葉齢。

*3 残草率（無処理区比）● 0%～ trace ◎ 1～ 10% ○ 11～ 20% □ 21～ 40%

*4 ガフェンストロール・ヘキシルフロンメチル・タイムロツ・フ'ロモア'チ'フロア'ル剤

*5 ピ'ロ'ミ'ノ'ハ'ク'メ'チ'ル・フ'ロ'モ'ア'チ'ル・ヘ'ク'シ'ル'フ'ロ'ン'メ'チ'ル・ヘ'ク'シ'ザ'ソ'ン'フ'ロ'ア'ル剤

Ⅲ その他

1 執筆者

新田靖晃・佐藤 誠

2 主な参考文献・資料

なし